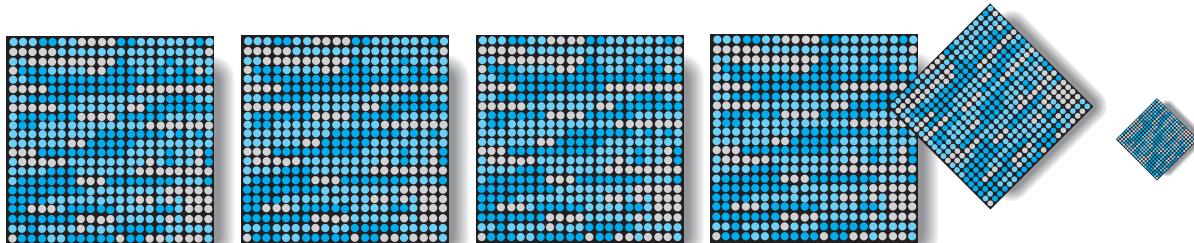


JAPANESE SOCIETY FOR BIOINFORMATICS



日本バイオインフォマティクス学会ニュースレター 第2号

学会ホームページ <http://www.jsbi.org/>
Tel:0774-38-0130 Fax:0774-38-0130

◆ C O N T E N T S ◆

[卷頭言]	2	• My GIW 2000 Experience	
[研究会およびワーキンググループの紹介]	2	[学会議事録等]	7
・アレイインフォマティクス研究会		・第3回幹事会議事録	
・バイオシミュレーション研究会		・第3回評議員会議事録	
・教育カリキュラム検討ワーキンググループ		・第4回幹事会議事録	
・一般向け講習会ワーキンググループ		・平成12年度総会資料	
[一般向け講習会報告]	4	[研究所紹介]	14
・第5回バイオインフォマティクス講習会		・経済産業省 生命情報科学的研究センター	
「ヒトゲノム計画とインターネット」		[学会の現況]	15
[GIW2000レポート]	6	・賛助会員リスト(2001年2月16日)	
・GIW Report from Christian Blaschke		[編集後記]	16

卷頭言

ヒトゲノムの塩基配列解読(ドラフト)が終了し、今後、遺伝子の同定と機能解析に重点が移る。言うは易いが実際には気の遠くなる作業である。わずか6000個の遺伝子しか持たない出芽酵母でさえ、1996年に全塩基配列が解読されて以来、膨大な労力を費やしてきたのにかかわらず、機能未知の遺伝子が未だ30%近くもあることからも理解できる。肥満やアルツハイマー病など、疾患関連遺伝子が同定されてから何年も経過したにもかかわらず、創薬ターゲットを見出せないでいるケースも多い。幾つかの遺伝子群が関与して疾患のリスクを増幅したり、オルタナティブ・スプライシングなどによって遺伝子の数以上のトランスクリプトームが作られるという、絶妙なしくみが機能解析をより複雑にしている。ヒトゲノムと同等のサイズを持つマウスゲノムの解読も進められており、2001年にはかなり使えるようになる。これらを比較すれば高い相同意を有する領域や蛋白質をコード、レギュレーションする領域を容易に特定できる。哺乳類では免疫、細胞分化など基本的な生体機能に関与する遺伝子配列は85%が一致するからである。ゲノム情報を基にマウスモデルを活用すれば、ヒトの疾患メカニズムの理解のみならず、薬剤評価も質的に一段と向上し、開発の成功率が上がる。既に解読された線虫やショウジョウバエを用いた、糖尿病、中枢神経系用薬の創薬において研究成果がでている。酵母情報からFK506やシクロスボリンなどの免疫抑制剤のメカニズムも解明されようとしている。

このような比較ゲノム研究に加えて、プロテオームも注目される。発現蛋白質から上流にさかのぼれば遺伝子とドッキングできると同時に、パスウェイ解析、疾患のサロゲ

ート・マーカーや創薬ターゲットに威力を発揮するからである。では、どれくらいの数の創薬ターゲット候補がゲノム科学によてもたらされるのであろうか? 7TM受容体、プロテアーゼ、キナーゼ、核内レスピター、イオンチャンネルなど数百~数千はある。これらのターゲットの多くはファミリーからなっているので、アミノ酸配列立体構造の類似性を比較モデリングする構造ゲノム科学が必須となる。共通の立体構造を探することで機能予想し、バーチャルスクリーニングすることも可能となった。これらの膨大な情報の中から目的とする情報を引き出して、創薬研究に活用するためにもバイオインフォマティックスへの期待は高まる一方である。データベースからターゲットを探し出すためのターゲット・バイオインフォマティックス、スクリーニング、アッセイデータ、疾患における発現様式などを統合するためのファンクションナル・バイオインフォマティックス、構造ゲノム、構造活性相関、バーチャルスクリーニングなどを統合するストラクチャラル・バイオインフォマティックス...など機能分化していくであろう。加えて、ファーマコジェネティックスにおいてゲノムワイド・スニップを用いた臨床試験が進められており、ここでもバイオインフォマティックスは不可欠である。しかしながら、この分野の人材は世界的にも不足状態が続いている、教育育成を計ることが急務である。

日本バイオインフォマティックス学会副会長

藤田芳司(グラクソ・スミスクライン株式会社)



研究会およびワーキンググループの活動報告

■ アレイインフォマティクス研究会

主査 久原 哲(九州大学大学院)

1. 第2回アレイインフォマティクス研究会開催報告

日時：平成12年8月28日(月) 13時30分から16時45分

場所：東京大学医科学研究所講堂

演者：1.油谷 浩幸(東京大学先端科学技術研究センター)
「医学研究におけるDNAchipの利用」
2.内藤 正規(山之内製薬(株)創薬研究本部)
「マイクロアレイ/DNAchipによるデータ解析とアレイインフォマティクスへの期待」
3.角田 達彦(理化学研究所)
「ゲノムワイドの発現・多型解析による疾患の個性診断」
4.篠原 歩 (九州大学システム情報学研究院)
「遺伝子ネットワークの同定アルゴリズムとその可視化」

参加登録者：144人 活発な質疑があり、アレイ解析に対する関心度の高さが目に着いた。特にチップの実験だけでなく、解析手法の開発にも関心があることが注目された。

2.今後の予定

アレイ解析ワークショップの開催を予定

日時：平成12年2月あるいは3月

予算の問題がある。JBA, JBIC等から予算を出してもらうとすると、主催をどこにするかで問題となる。

■ バイオシミュレーション研究会

主査 富田 勝(慶應義塾大学環境情報学部)

2000年7月15日に第一回の研究会を慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにて開催し、約50名の参加がありました。11月13日には六本木のアークヒルズで、人工知能学会分子生物情報研究会と共に、細胞シミュレーションのシンポジウムを行い、こちらも約50名の参加がありました。

細胞のコンピュータシミュレーションは今後ますます重要なになってゆくものと思われます。アメリカではDOE(エ

ネルギー省)とNIHがそれぞれ細胞シミュレーションの大規模プロジェクトを発足させてています。今後はシミュレーションソフトもさることながら、そのコンテンツであるモデルそのものの価値が再確認されるのではないかと思っています。

2001年7月20日にはコペンハーゲンでISMB01のサテライトミーティングとして、ISCBのSIGSIMと共に細胞モデリングのワークショップを予定しています。

■ 教育カリキュラム検討ワーキンググループ

主査 小長谷 明彦 (北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科、理化学研究所GSC)

2000年4月に(幹事会に引き続き)、第一回のワーキンググループを東京にて開催し、ワーキンググループで対象とするバイオインフォマティクスの範囲について、意見を交換した。大学院のカリキュラムとして要求される事項は多岐にわたり、また、目標も様々である。先例としては、米国

のバイオインフォマティクスコースがあるが、短期の専門家育成コースとしての意味合いが強い。より日本の教育事情に適した教育カリキュラムの策定にむけてコアメンバーによる検討チームを発足させることとした。

2001年度検討課題

成果公表予定

大学院のバイオインフォマティクスカリキュラム

日本バイオインフォマティクス学会総会

■ 一般向け講習会ワーキンググループ

主査 美宅 成樹 (東京農工大学工学部)

医科学研究所ヒトゲノム解析センターで7月24日(月)10:00～17:00バイオインフォマティクス講習会が行われました。以下のとおり、その内容を坂井寛子さん(農工大)

にまとめもらいました。一般向け講習会ワーキンググループとしては2001年も続けて講習会を行う予定です(詳細は未定)。

一般向け講習会報告

■第5回バイオインフォマティクス講習会

報告 坂井 寛子 (東京農工大学)

「ヒトゲノム計画とインターネット」 ゲノム計画からポストゲノム計画へ

講習会内容

午前は東京大学医科学研究所 大講堂で参加者全員を対象に講義を行い、午後は参加者をグループに分け、グループごとに体験学習を行いました。

講義1 「最近は生物科学のトピックスがいっぱい!」

中井謙太先生

クローン生物のはなし／ホメオティック変異のはなし／セントラルドグマのはなし／転写制御ネットワークのはなし／マイクロプラズマのゲノムのはなし／セレラ社のショットガン法のはなし／コンピュータによる遺伝子発見のはなし／生命の理解とシミュレーションのはなし

講義2 「生物の研究でコンピュータはどんな風に使われているの?」 秋山 泰先生

ゲノムの研究になぜコンピュータを使う? (配列データや構造データがどう表現できるか。データが如何に増加しているか) / ゲノム解析用のプログラムを作成してみよう (データベース検索の例など) / 世界中のWWWサーバでゲノムのことを調べる (ゲノムネットWWWや、世界の他のサーバ紹介) / 並列処理: パソコン1000台分のコンピュータが大活躍 (世界のゲノム施設などのPCクラスタの現状。米政府の未来計画等) / WWWや並列処理では、ネットワークにアクセスする様子を見せた。

講義3 「世界のコンピュータにどんな生物のデータがあるのだろうか?」 五斗 進先生

ゲノムデータベースからパスウェイデータベースへ／ゲノムデータベースからパスウェイデータベースの話へと展開して、最後は簡単なシミュレーションの話になりました。

講義4 「生物の分子の姿・形を見てみよう——構造ゲノミックス」 諏訪牧子先生

タンパク質の立体構造／構造ゲノミックスのバイオインフォマティクス周辺／ゲノムワイドなタンパク質立体構造予測、分類。

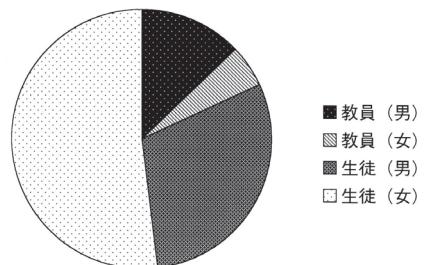
(午後)【体験学習】

- a ゲノムセンター見学(高木研究室の皆さん)
- b コンピュータ実習(中井先生)
- c 質疑応答(美宅先生)

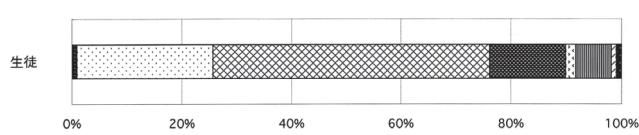
参加者内訳

参加者数 135人 教職員 24人 生徒 111人

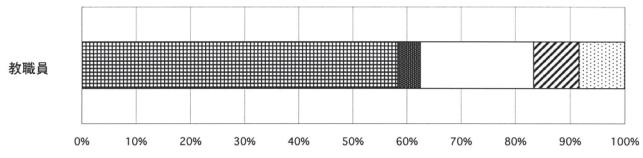
参加者は例年になく多く、ヒトゲノムに対する関心の高まりを示していると考えられます。中でも、女子生徒が多いことが目立ちます。



参加生徒を学年別にみると高校2年生が多く、進路決定の参考にしようとしているようです。



■浪人 □高校3年 ■高校2年 □高校1年 □高校（不明） □中学3年 □中学2年 ■中学1年



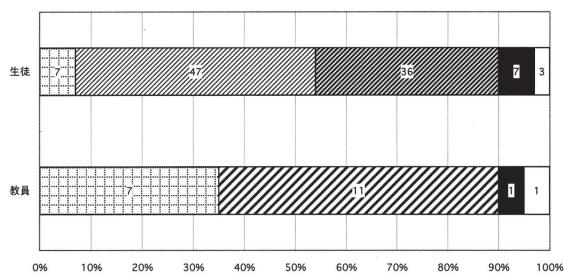
■高校生物 ■高校生物+他 □高校生物以外 □中学理科 □その他

参加者の声 アンケート集計結果

回答数 教員 20人 (83%) 生徒 101人 (93%)

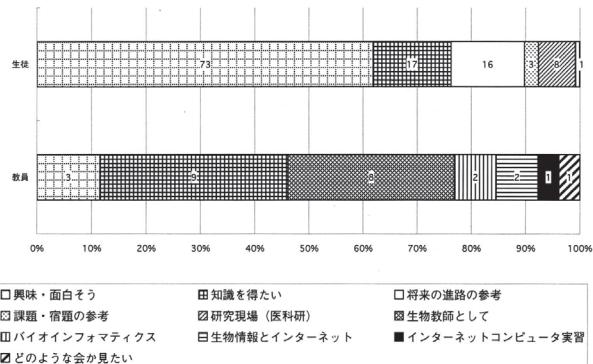
Q1 どのようにして、この講習会を知りましたか。

事前に各高校宛に送付したパンフレットの広報効果が高いようです。



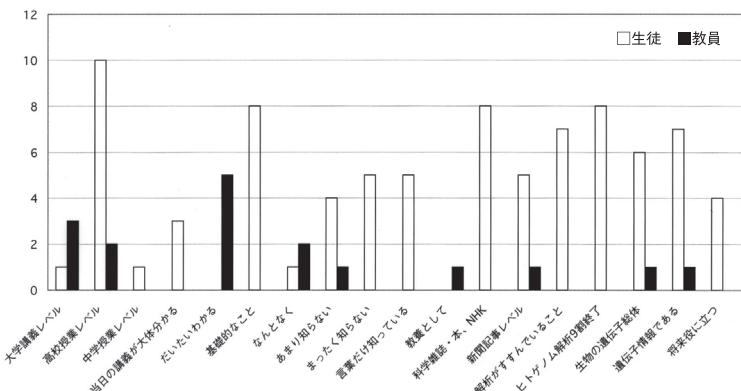
□インターネット □案内パンフレット □先生の紹介 □学校に掲示 ■知人から □医科研の人から

Q2 今日の講習会に参加された動機をご記入ください。



教員には、新しい学問分野を理解しておきたいという意識が感じられました。

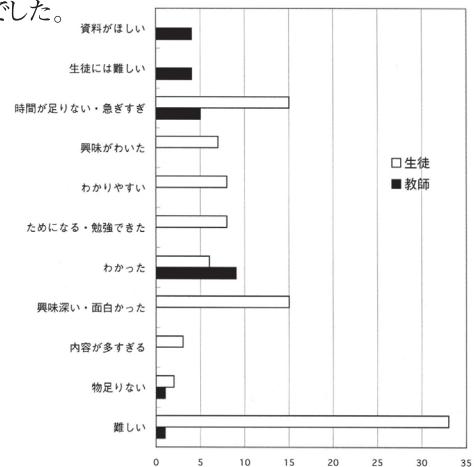
Q3 ゲノムについてどんな事を知っていましたか。



参加している生徒には知識レベルのばらつきが大きかったです。かなり専門的なことを理解している参加者も少なくなく、マスコミの影響の大きさがうかがわれました。

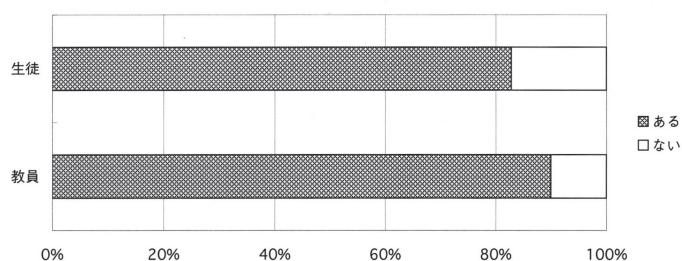
Q4 講義に対しての感想をご記入ください。

難しいという意見が全体の25%くらいありましたが、多くは理解しようという意欲を持って聞いてくれたようでした。



Q5 今までインターネットを利用したことがありますか。

利用経験のある割合が90%近いというのは昨年までとは大きく異なります。わずかな間にインターネットが爆発的に普及したことがうかがわれます。



GIW 2000 レポート

GIW2000 (11th Genome Informatics Workshop)は2000年12月18日と19日に、東京恵比寿ガーデンプレイスで開催され、約540名の参加がありました。今回から、そのポスターセッションとソフトウェアデモンストレーションが日本バイオインフォマティクス学会の年会として分離されています。今回のプログラム委員会は、米国ワシントン大学のKeith Dunker博士と北陸先端科学技術大学・理化学研究所の小長谷明彦博士が委員長を務められ、全部で20件の口頭発表が採択されました。これらの論文の要約はMEDLINEデータベースにも収められます。また、ポスター発表が114件、ソフトウェアデモン



Dr. Gene W. Myers

ストレーションが5件ありました。さらにセレラ・ジェノミクス社のGene W. Myers 博士と東京大学・理化学研究所の横山茂之博士が最新の研究成果を招待講演で話してくださいました。なお今回、学会として、海外から参加して口頭発表を行う若手研究者の旅費の一部を援助することとし、2名の方が選ばれました。以下にその二人からのGIWレポートを掲載します。

GIW2001も同じ日程(12月18~19日)、同じ場所で開催され、プログラム委員長には、Limsoon Wong博士と松田秀雄博士が就任される予定です。



Dr. Shigeyuki Yokoyama

<http://giw.ims.u-tokyo.ac.jp/giw2001/>

■ GIW Report from Christian Blaschke

Thanks to the generous travel award I received from the Japanese Society of Bioinformatics it was possible for me to attend to this very interesting workshop. My first impression was the good organization that was done at this event. The posters were presented all together in one part with enough pace to walk through, to get in contact with the authors and to discuss the work together.

Our own work is concentrated on text analysis applied to the results of expression experiments with DNA arrays. Therefore, it was very interesting to see that a considerable part of the posters was focused on the work with DNA arrays (around 20) and also some efforts in the field of text analysis could be seen.

The exhibition of the different hard and software companies was very informative. They demonstrated their new products and state of the art in professional bioinformatics. The only critique to this point may be that the exhibitors at an international conference should in general know English and be able to explain their products to a foreign person.

My experience with the oral presentations was also very positive. The microphones and the sound system and the lights were used in a very professional way. At the time of

my own presentation I felt the help of the organizers with the microphones and the quality of the projector for the presentations was very high. The different chairmen did a very good job and most of the talks finished in their scheduled time.

The presentations came from a wide range of different fields. They included genome analysis, text analysis, DNA expression array analysis, protein structure analysis and the simulation of genetic networks.

The program was very dense but there was enough time left to discuss the works in the breaks in a personal conversation with the authors. Concluding I have to say that this workshop was a very positive experience and it extended my knowledge in different fields of bioinformatics.

Dr. Christian Blaschke



Christian Blaschke

Protein Design Group, CNB/CSIC Universidad Autonoma Cantoblanco
28049 Madrid, Spain
URL:<http://www.pdg.cnb.uam.es/blaschke/>

■ My GIW 2000 Experience

For a Spanish PhD student, assisting a scientific congress in Japan is, of course, an amazing experience, not only for the contents and the importance of a workshop of this type, but also for the opportunity to visit a city like Tokyo. I must say that the trip was possible in part thanks to the grant supplied for the Japanese Society of Bioinformatics (Thank you very much for this support!).

The increasing importance of Bioinformatics in Genomics and, in general, in Molecular biology is now indisputable and this idea was latent in the oral presentations as well in the subjects of the posters and software demonstrations. On the other hand, when I had to present a report about the workshop to my working group in Spain, and I tried to classify the posters, I realized the difficulty of categorize many of them in just one aspect of Bioinformatics. This is another very clear conclusion to extract from the congress: the huge diversity of subjects and the theme overlapping in the projects.

The preceding conclusion is valid for any Bioinformatic congress today, this is true, but in my opinion, what makes the GIW2000 special is that this year was the eleventh edition!! Ten years ago, a Genomic Informatic Workshop was already organized in Japan!... and, if one revise

the themes of the first edition, there are just the same diversity and importance of themes than today.

To finish, if I have to mention a point to improve for the next workshop, I'd like to say that the lack of English versions of the leaflets of some commercial companies, was, in my opinion, the only negative point to solve.



Dr. Juan Carlos Oliveros Collazos

Thank you very much to all authors, organizers and staff. See you next year... I hope.

Juan Carlos Oliveros Collazos

Protein Design Group, CNB/CSIC Universidad Autonoma Cantoblanco
28049 Madrid, Spain

<http://www.pdg.cnb.uam.es/oliveros>

学会議事録等

■ 日本バイオインフォマティクス学会第3回幹事会議事録

日 時 平成12年10月25日(水) 13:00～15:00	場 所 国際観光会館 8F レストラン・カウベル
出席者 金久(会長), 美宅, 宮野, 中井, 松田, 五斗(幹事)	

報告及び議事

1. 総会について

(a) 会則による審議事項

- イ. 事業計画および収支予算
 - ロ. 事業報告および収支決算
 - ハ. その他評議委員会において必要と認めた事項
- 12月に開催する予定なので、総会の目次については以下のようとする。
- ・平成11年度事業報告
 - ・平成11年度収支決算
 - ・平成12年度事業計画および中間報告

- ・平成12年度収支予算および中間報告

(b) 開催時期と場所について

- ・会則から
- (第22条) 通常総会は、毎年1回開く。
- (第24条) 総会の招集は、少なくとも10日以前に、議案を拘置しなければならない。
- (第26条) 総会は、会員総数の10分の1以上出席しなければ、その議事を開き、議決することができない。ただし、

当該議事について書面または委任状をもって、あらかじめ意志表示をした者は、出席者とみなす。

- ・会計年度は4月1日から3月31日となっているが、12月のGIW(年会)に合わせるのが都合が良いので、総会は12月18日のポスターセッションの前に組み込む。1分間紹介セッションの前に15分程度。場所は、1分間紹介セッション会場(恵比寿ガーデンホール3階)。
- ・委任状を取るために、総会の案内は11月中旬までに各会員宛てに郵送する。同時に、ホームページでも案内する。
- ・ニュースレターに開催報告書を掲載する。
- ・参考資料:情報処理学会第42回通常総会目次。

2.会計監査報告

- ・会計監査の市吉伸行(株式会社三菱総合研究所)、藤山秋佐夫(国立遺伝学研究所)の両氏が行う(任期は平成13年3月31日まで)。
- ・必要資料:収入一覧、支出一覧と領収書、監査報告書。
- ・総会で11年度の会計監査報告を行う。OHPを利用したものでのよい。
- ・会員専用ホームページでも公開する。
- ・ニュースレターに載せる。そのため1月頃にニュースレターの第2号を発行する。

3.選挙について

- ・会則から

第3条 評議員の選出は次のように行う。

- イ. 評議員は正会員および名誉会員(以下正会員等とよぶ)の選挙によって決められる。
- ロ. 会長は正会員等の中から少なくとも3名を選んで選挙管理委員を委嘱する。選挙管理委員は選挙事務を行う。
- ハ. 正会員等の投票は1人1票、無記名5名連記とし、原則として郵送によるものとする。
- 二. 評議員は連続して2回選出されることはできない。
- ホ. 評議員の定数は20名とする。欠員が生じた場合は、次の選挙まで補充する必要はないものとする。
- ヘ. 得票者中の上位の者より順に20名を選出する。同数得票者については年齢の高い順に順位を定める。

第4条 会長の選任は次の通り行う。

- イ. 会長は評議員の選挙によって決められる。
- ロ. 投票は無記名投票とする。投票総数の過半数を得た者を会長とする。
- ハ. 投票総数の過半数を得た者がないときは、高点順に2名をとり改めて投票を行い、最高点者を会長とする。このとき同点の場合には抽選により決定する。

第5条 副会長は会長が指名し、評議員会がこれを承認する。

第6条 幹事は会長が指名し、評議員会がこれを承認する。

第7条 評議員会は、会長、幹事、評議員以外の正会員の中

から2名の会計監査を選出する。会計監査は連続して2回選ばれることはできない。

第8条 会長は、評議員会の承認を得て必要な委員会を作ることができる。

- ・時期:3月までに新評議員10名を選出する。その後、評議員会を開催し、会長を選出する。会長が選出された後、会長に副会長、幹事を指名してもらい、評議員会で承認する。その後、評議員会は会計監査を選出する。
- ・選挙管理委員会の指名:会長により少なくとも3名を指名する。その後、選挙管理委員よりなる選挙管理委員会は、評議員選挙を告知し、立候補者及び推薦を行い、候補者のリストを作る。
- ・選挙管理委員:今年度で任期が切れる評議員の中から、江口至洋、高井貴子、永井啓一の3氏にお願いする。
- ・立候補者の推薦方法:
今年度で任期が切れる評議員10名が推薦する。
ホームページに案内を出し、自薦他薦を募る。
- ・選挙方法:候補者を列記した投票用紙(はがき)を各会員に送付する。投票用紙には自由記名できる枠も用意しておく。投票用紙は1月上旬までに送付し、2月上旬までに回収する。評議員会は*3月に新・旧両評議員参加で開催する。

4.年会(GIWポスターセッション)について

- (a) 現在、ポスター112件、ソフトデモ4件の投稿がある。
昨年は合わせて90件程度だった。企業展示も14コマに増えたので、場所を考える必要がある。
ホワイエまでポスターを出す?
企業展示とコーヒーサービスを上の階に持っていく?
- (b) Genome Informatics Vol.11の出版について
 - i. 経費は、ヒトゲノム解析センター、特定(C)ゲノム情報科学、特定(A)ゲノムサイエンス、日本バイオインフォマティクス学会で対応する。
 - ii. コピーライトは日本バイオインフォマティクス学会とする。
 - iii. 年会への参加者以外への販売: Universal Academy Press:1万円。
会員割引:5000円。giw@ims.u-tokyo.ac.jp 宛てに問い合わせてもらう。
 - iv. 文部省からの補助について。
年間4回出版するのであれば、300万円程度の補助がつく可能性あり。
ただし、年間1回だけだと30万円程度になる。
- (c) ポスターセッションのための会場費(1時間当たり13万円)。
初日の15時~18時と2日目の2時間分を学会で負担。(計65万円)。
- (d) ポスターパネル経費(約80万円)及びネットワーク経費(約50万円)。学会で一部負担する。

(e) 論文が採択されている学生さんの支援(現在のところ海外から3名). 学会から1名当たり5万円を支援する.

→ニュースレターに GIW の参加感想を書いてもらってはどうか.

今年はポスター発表への支援はなし(来年は未定).

国内からの参加者にも支援を考える.

(f) 企業展示からの参加費が約200万円.

招待講演.ノンケットの費用に充てる.

(g) 参加登録料:事務局がとりまとめて,GIWの運営費に充てる.

JSBiへの入会金と年会費は学会へ.

(h) 学会として,会場費・旅費支援を含めて100万円程度を負担する.

(i) 広告について:補助をもらっている場合は広告を載せるの

に問題がある.

5.ニュースレターについて(第2号の内容案)

・講習会開催報告.

・研究会・ワーキンググループ開催報告.

・GIW 参加報告:Dunker 氏,Meyers 氏,旅費の支援を受けた学生さんが執筆者候補.

・総会開催報告.

・会計監査報告.

・広告.ただし,郵便の扱いの関係で半分以上になるとまずい.

6.その他

・ホームページのアクセス統計を取る.

■ 日本バイオインフォマティクス学会第3回評議会議事録

日 時 平成12年10月25日(水) 15:00~17:00 場 所 国際観光会館 7F E-room

出席者 金久(会長&評議員),江口,皿井,高井,永井,中西,根本,浅井,久原,森(評議員),美宅,宮野(評議員&幹事),秋山,中井,松田,五斗(幹事)

報告及び議事

1.平成12年度会計中間報告(配付資料)(金久会長より報告)

- ・配付資料では学会創設時より今までの会計報告だが,最終的には11年度と12年度を切り分けた上で会計監査に渡す予定.
- ・会計監査の結果は,12月に予定している総会で報告する.
- ・旅費交通費は学会事務担当者の出張旅費.
- ・講習会その他:バイオインフォマティクス講習会での諸費用.
- ・備品:FAX用 G4 購入費.

セッションの前に15分程度.

GIW : 12/18, 19 に恵比寿ガーデンホールにて開催.(宮野評議員より報告)

- ・JSBiとの関係:ポスターおよびソフトウェアデモンストレーションを JSBi の年会とする.
- ・経費は,ヒトゲノム解析センター,特定(C)ゲノム情報科学,特定(A)ゲノムサイエンス,JSBi で対応する.
- ・Genome Informatics のコピーライトは JSBi とする.
- ・将来的には,Genome Informatics の出版の面を学会として考えていく必要は出てくる.(特定(C)が5年プロジェクト,ヒトゲノム解析センターが10年の期限付きのため)
- ・投稿状況:ポスター,論文とも過去最高.
- ・論文が採択されている学生さんの支援(10/24現在,海外から3名).

学会から1名当たり5万円を支援する.

→ニュースレターにGIWの参加感想を書いてもらってはどうか.

今年はポスター発表への支援はなし(来年は未定).

国内からの参加者にも支援を考える.

- ・参加登録料:事務局がとりまとめて,GIWの運営費に充てる.
- ・JSBiへの入会金と年会費は学会へ.
- ・学会として,会場費・旅費支援を含めて100万円程度を負担する.

2.総会と役員選挙について

総会:

GIW(年会)期間中に開催.(金久会長,宮野評議員より報告)

- ・議事予定

- (1) 平成11年度事業報告
- (2) 平成11年度収支決算
- (3) 平成12年度事業計画および中間報告
- (4) 平成12年度収支予算および中間報告
- (5) 平成13年度事業計画
- (6) 平成13年度収支予算

平成12年度分については,今年度だけ承認と中間報告を同時にする.次年度からは中間報告のみ.

- ・会計年度と総会の関係について

会計年度は4月1日から3月31日となっているが,12月の GIW(年会)に合わせるのが都合が良いので,総会は12月18日のポスターセッションの前に組み込む.1分間紹介

学会として成り立つための適正収入はいくらくらいか?(江口評議員)

→年会,出版,事務員,通信,機器などを考えると年間1,000万ぐらいは必要。

来年度は少なくとも研究会の支援をできるぐらいにはしたい。

賛助会員への報告はどの程度のものが必要か?(金久会長)

→ホームページ程度の情報を会計報告書につければいいのではないか。(根本評議員)

役員選挙:10名の評議員

- ・選挙管理員:会長指名により江口至洋,高井貴子,永井啓一の3氏にお願いすることになり了承された。実質作業は幹事も行う。

- ・選挙方式:推薦者名簿+自由投票(幹事会議事録参照)

- ・推薦,立候補の手続き:

今年度で任期が切れる評議員が推薦する。本人の了解を取ったうえで、11/15までに学会事務局 (okada@jsbi.org)へ連絡する。

なるべく賛助会員以外の企業から推薦するのがいいという提案が江口評議員よりなされた。

立候補についてはホームページでも公示し、事務局で取りまとめる。

11月中に立候補者のリストを作成して案内を出す。

3.平成13年度予算計画と活動計画(金久会長)

- ・基本的な方針は今年度と同様。

- ・年会をGIWのポスターセッションとして開催する。

- ・チュートリアル,バイオインフォマティクス講習会の開催および新規ワーキンググループ,研究会の立ち上げ。13年度は講師に対する旅費と謝金を出せるようにしたい。

- ・ニュースレターを年2回程度発行する。

- ・教育プログラムについては、技術者養成コースを立ち上げたい。

→講師・カリキュラムなどは幹事会で決めてすぐにでも始めたい。

4.研究会およびワーキンググループの活動報告および計画

アレイインフォマティクス研究会(久原評議員)

- ・第2回アレイインフォマティクス研究会開催報告(配付資料参照)

- ・今後の予定(配付資料参照)

第3回をアレイ解析ワークショップとして開催予定。外国からの招待講演を入れる予定なので予算規模が200~300万円程度になる。学振などから補助をもらうとすると主催をどこにするかという問題がある。参加費+企業展示も一つの方法。

- ・トレーニングコースの必要性もあるが、場所の確保が難しい。
- バイオインフォマティクス講習会(美宅評議員)
- ・参加者:高校の先生(20数名),高校生(約100名),中学生(数名)
- ・参加者の数が増えたので、講習をするのは難しくなってきた。農工大には講習だけならできそうな場所があるが、実習と見学を両方できるところはあまりない。

5.ホームページの運用について

- ・英語版準備中:英語版登録画面、ホームページの英語化。外国の住所を入力できるようには改良済み。
- ・セキュアサーバーは立ち上げ済みで、クレジットカードでの入会受付も行える。
- ・会員専用ページ:遅れ気味だが現在準備中。GIW論文集、MEDLINEへの登録は現在進行中。Full paperのみ登録される予定。

6.後援依頼について

- ・(財)神奈川科学技術アカデミーから後援の依頼があったので引き受けた旨の報告が金久会長よりなされ、了承された。

7.その他

- ・ISCBとの関係について。

AltmanはJSMBでJSBiと協力関係にあると言っていたので、何らかのアクションはある。

日本担当窓口も誰かいるはず。

- ・GIWの名称について:Internationalを付けた方がいい、Conferenceにした方がいいという意見も出たが、GIWが定着しているので変更しづらい。

- ・韓国や中国からのインフォーマルな申し出として、GIWを日本にとどめず、アジアという枠で開催してはどうかというのが来ている(宮野評議員)。

- ・外務省主催の日韓科学技術シンポジウム:2001年にGIWのサテライトWSを開きたいという申し出がある(秋山幹事)。

配付資料

- ・平成12年度会計報告書
- ・会員数の推移
- ・第2回評議委員会議事録
- ・第2回幹事会議事録
- ・賛助会員一覧
- ・アレイインフォマティクス研究会 報告

回覧資料

- ・ホームページ
- ・会則・細則
- ・役員一覧
- ・会員名簿

■ 日本バイオインフォマティクス学会第4回幹事会議事録

日 時 平成12年12月19日(火)12:00~14:30 場 所 恵比寿ガーデンプレイス恵比寿ガーデンホール裏
出席者 金久(会長),秋山,中井,松田,美宅,宮野,五斗(幹事),岡田(議事録)

報告及び議事

1. 役員選挙について

- ・会則から

第3条 評議員の選出は次のように行う。

イ. 評議員は正会員および名誉会員(以下正会員等とよぶ)

の選挙によって決められる。

ロ. 会長は正会員等の中から少なくとも3名を選んで選挙管理委員を委託する。選挙管理委員は選挙事務を行う。

ハ. 正会員等の投票は1人1票、無記名5名連記とし、原則として郵送によるものとする。

退任する役員に各々一名ずつ挙げてもらった候補者リストを見ると、

- ・企業のバランスを考えると、自社の者を推薦しているケースはあまり望ましくないという意見が出たが、今回はそのままにする。
- ・候補に挙がった10名+αとして個人でも募る(詳細は後述)。
- ・賛助会員から個人で会員になっているところが少ないので、会員になってもらい権限を与えた方がいい。
- ・候補に挙がった人のうち、非会員には会員になってもらうよう推薦者から言ってもらう、もしくは、会員になってもらえないようであれば、会員名簿を渡し、その中から候補者を挙げてもらう。

手順:選挙管理委員(以下選管と呼ぶ)に以下の行程で進める由、了解を得る。

ホームページを作成し、全会員にメールで通知【12月中】

ホームページで公示する【1月15日締め切り】

候補者名、候補者の略歴、推薦者名、推薦理由を明記し、本人の了解を得ているもののみ受理する

連絡をもらった分については全て明らかにする

投票用紙を発送【1月22日】

投票締め切り【2月23日(金)消印有効】

集計【2月26日(月)の週】

- ・事務局で行った開票結果を選管に報告し、了解を得た後、新評議員を決定する。
- ・会計報告と同様に、報告書を作成し選管から承認印をもらう。
- ・新旧合同の役員会を開催する【今年度中】

2. ISCBとの協力

- ・GIWとの協力関係について

Full Paperで発表する学生にはどこの国からでも一人5

万円を支給する。

ISCBのメンバーであれば、Poster, Software demonstration 発表でも支給することにする。

ISCB のメンバーに対する参加費の割引

- ・金銭的なサポートは望めないので相互にリンクをはる ISMB, PSB, RECOMB ↔ JSBi, GIW など
- ・ISCB関連のメーリングリストに JSBiのお知らせ(GIWの開催案内など)を送ってもらう。
- ・ISCB主催の国際会議のスポンサーに加えてもらう。
- 参加する JSBiの学生会員に旅費のサポートをする。
- ・JSBi学生会員がISCBに登録する際に、学生証明書を発行する。

3. ニュースレターの発行(1月発行)

- 卷頭言を藤田副会長に書いてもらってはどうか
- GIW の感想を書く
- 総会報告(会員数の推移なども含めて)
- 役員会議事録
- 役員選挙について選挙管理委員に書いてもらってはどうか
- ワーキンググループ、研究会の報告
- 高木特定(C)
- 生命情報科学研究センターの案内(秋山幹事)
- 分子生物学会でのワークショップの報告(中井幹事)
- 賛助会員名簿
- ISCBとの連携について
- 広告:求人状況についてはホームページに案内(リンク)を出す。
- 現在400余名の会員名簿を載せてはどうかという意見があつたが、会員以外に配布することもあることを考慮し、別冊で用意した方がいいということになった。
- 日程表があればいいという意見が出た。
来年のワークショップも12月18(火), 19(水)日に恵比寿ガーデンプレイスでの開催が決定している
- Genome Informatics Workshopの略称、GIWは定着しているのでWorkshopをWorldなどに変えたい

4. ホームページの XML 化

具体的なことはまだ

* MEDLINE での Genome Informatics の登録が Genome Informatics Series となっている。Series を取りたいので Universal Academy Press に連絡を取る(宮野幹事)。

ISSN の登録名を変更する必要があるかもしれない。

5. 会費の更新手続き

- ・ ONLINE で継続手続きができるようにする(領収書の要不要も選択できるようにする)。
- ・ 現行のホームページ(入会申込みフォーム)を変更し、入会・継続フォームにする。
- ・ 1月中に払込書を郵送する。
- ・ 振り込みに行く手間等を考慮すると自動継続できるようにした方がいい。

■ 平成12年度日本バイオインフォマティクス学会総会

日 時 日時:平成12年12月18日(月)14時40分～ 場所 恵比寿ガーデンプレイス恵比寿ガーデンホール3階
参加人数 約200名

議 案 第1号 平成11年度事業報告
第2号 平成11年度収支決算
第3号 平成12年度事業計画および中間報告

第4号 平成12年度収支決算および中間報告
第5号 平成13年度事業計画
第6号 平成13年度収支予算

平成11年度事業報告

1. 総会・評議員会

設立総会:平成11年12月13日(恵比寿ガーデンプレイス)
11年度評議員会:平成12年1月14日(東京・国際観光会館)
・ 研究会とワーキンググループを発足
アレイインフォマティクス研究会(主査:久原 哲)

バイオシミュレーション研究会(主査:富田 勝)

教育カリキュラム検討ワーキンググループ(主査:小長谷明彦)
一般向け講習会ワーキンググループ(主査:美宅 成樹)

2. ホームページの立ち上げ

<http://jsb.genome.ad.jp/> (現在は、<http://www.jsbi.org/>)

平成11年度収支決算報告

(平成11年12月13日～12年3月31日)

[収入の部]	[支出の部]
11年度収入	11年度支出
入会金 77,000	会議費 33,600
受取利息 24	旅費交通費 23,300
雑収入 5,000	ファクシミリサービス 3,570
前期繰越 0	郵便局手数料 2,070
	通信運搬費 11,260
	事務費 37,255
	次期繰越 △ 29,031
合計 82,024	合計 82,024

前受金	
12年度会費	593,000
12年度賛助会費	1,700,000
11年度決算	
次期繰越	△ 29,031
合計	2,263,969
平成11年度財産報告(平成12年3月31日現在)	
第一勧業銀行伏見支店(普) #1567677	1,490,454
郵便口座 #00990-8-153207	712,930
現金	60,585
合計	2,263,969

上記の通り報告します。

会計 岡田 泰子 

監査の結果、上記の通り相違ありません。

平成12年12月18日

会計監査 市吉 伸行 
会計監査 藤山秋佐夫 

平成12年度事業計画

1. 総会・評議員会・幹事会

- 総会(12月18日、恵比寿ガーデンプレイス)
- 第1回評議員会(4月予定、於東京)
- 第2回評議員会(10月予定、於東京)
- 第3回評議員会(新旧合同、3月予定、於東京)
- 幹事会(評議員会と同日、及び年会時)

2. 選挙

- 会員による評議員選挙(2月)
- 評議員による会長選挙(3月)
- 会長による幹事の指名(3月)

3. 年会

- 年会(12月18~19日)
- 学生の旅費援助

4. 研究会・ワーキンググループ

- アレイインフォマティクス研究会(6月・8月予定、於東京)
- バイオシミュレーション研究会(7月予定、於神奈川)
- 教育カリキュラム検討ワーキンググループ
- 一般向け講習会ワーキンググループ(バイオインフォマティクス講習会)
- (7月予定、於東京)

5. ニュースレター

- 7月と1月に2回発行

6. ホームページ

- セキュアサーバを立ち上げて、入会申込をオンライン化
- Genome Informatics誌のオンライン化
- PubMedからのリンク

平成13年度事業計画

1. 総会・評議員会・幹事会

- 総会(12月18日、恵比寿ガーデンプレイス)
- 第1回評議員会(7月予定、於東京)
- 第2回評議員会(新旧合同、3月予定、於東京)
- 幹事会(評議員会と同日、及び年会時)

2. 選挙

- 会員による評議員選挙(2月)
- 評議員による会長選挙(3月)
- 会長による幹事の指名(3月)

3. 年会

- 年会(12月18~19日)
- 学生の旅費援助

4. 研究会・ワーキンググループ

- アレイインフォマティクス研究会
- バイオシミュレーション研究会
- 教育カリキュラム検討ワーキンググループ
- 一般向け講習会ワーキンググループ(バイオインフォマティクス講習会)

5. ニュースレター

- 7月と1月に2回発行

6. ホームページ

- 英語版作成
- Genome Informatics誌のXML化

7. 國際対応

- ISCBとの協力

平成12年度収支中間報告

(平成12年4月1日~12年11月30日)

[収入の部]	[支出の部]	[収入予定分]	[支出予定分]
12年度会費(前受分) 593,000	会議費 57,400	現在高 2,825,439	ドメイン名登録料 10,241
12年度賛助会費(前受分) 1,700,000	旅費交通費 48,600	12年度会費 60,000	GIW 参加旅費援助 100,000
12年度会費 448,000	ファクシミリサービス 10,080	入会費 10,000	GIW 会場費 650,000
12年度賛助会費 1,150,000	郵便局手数料 1,990		GIW 書籍代金 250,000
入会費 158,000	クレジット手数料 8,340		ニュースレター第2号 500,000
雑収入 14,288	通信運搬費 124,356		通信運搬費 200,000
前期繰越 △ 29,031	セキュアサーバ発行費 85,365	合計 2,895,439	合計 1,710,241
	ニュースレター制作費 546,420		次期繰越見込額 1,185,198
	講習会費 30,062		
	備品費 281,505		
	事務費 14,700		
合計 4,034,257	合計 1,208,818		
	現在高 2,825,439		

上記の通り報告します。

平成12年12月1日

会計 岡田 泰子 (印)

平成12年度収支予算案

[収入の部]	[支出の部]
会費 1,100,000	年会費用 1,000,000
賛助会費 2,850,000	学生旅費援助 200,000
入会費 170,000	研究会費 0
	講習会費 50,000
	会議費 200,000
	ニュースレター作成費 1,000,000
	通信運搬費 400,000
	備品費 300,000
	事務費 150,000
	次期繰越 820,000
合計 4,120,000	合計 4,120,000

平成13年度収支予算案

[収入の部]	[支出の部]
会費 1,200,000	年会費用 1,000,000
賛助会費 3,000,000	学生旅費援助 500,000
入会費 100,000	研究会費 500,000
	講習会費 50,000
	会議費 200,000
	ニュースレター作成費 1,000,000
	通信運搬費 500,000
	事務費 200,000
	ホームページ管理費 200,000
	予備費 150,000
小計 4,300,000	小計 4,300,000
前期繰越 820,000	予備費・次期繰越 820,000
合計 5,120,000	合計 5,120,000

研究所紹介

経済産業省 生命情報科学研究センターが4月スタート

2001年4月、バイオインフォマティクスの研究を専門に行う経済産業省傘下の新しい研究所「生命情報科学研究センター」が、東京お台場に開設されます。本年1月に従来の工業技術院は経済産業省産業技術総合研究所に改称されましたが、さらに4月には独立行政法人化と

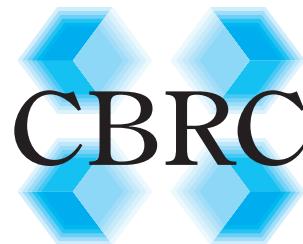
併せて研究所が統廃合され、新たに23の研究センターと22の研究部門などに大きく再編されます。生命情報科学研究センターは、この産業技術総合研究所の一部として運営され、国のプロジェクト等を通じてバイオインフォマティクスの研究開発を行います。

日本語名称：生命情報科学研究センター

英語名称：Computational Biology Research Center (CBRC)

住所：東京都江東区青海2-41-6(ゆりかもめテレコムセンター駅そば)

人数：初年度で約30名の常駐研究員を予定(職員、ポスドク、共同研究含む)



予算：初年度で約4億円

発足時点でのチーム構成と研究テーマは以下の通りです。

1) アルゴリズムチーム

配列アラインメントやモチーフ探索等のアルゴリズムの研究。

2) 数理モデル・知識表現チーム

確率モデルによる配列の数理的表現や、生命情報の高度な格納、検索、演繹方式の研究。知識自動抽出、バイオイメージングなど。

3) ゲノム情報科学チーム

全ゲノムレベルの解析を通じた、遺伝子やタンパク質の機能予測を行うための情報科学的研究と応用。

4) 分子情報科学チーム

タンパク質やペプチド分子等の立体構造および機能部位の解析・予測を行うための情報科学的研究と応用。

5) 細胞情報科学チーム

代謝シミュレーションや遺伝子制御ネットワークの推定などを用いた情報科学的研究と応用。

生命情報科学研究センターは、電子技術総合研究所が母体となって設立されます。多彩な分野の出身者が集まり、自由な発想で分野融合的な研究を行うことを目指していますが、それらの研究を進める共通の基盤として、情報科学の最新の理論的知見と最新鋭の並列計算環境を積極的に活用することを大きな方針としています。センター発足を前に3月末には、1024台規模のP Cクラスターシステム (Dual PentiumIII 933 MHzが512ノード、ミリネットで高速相互接続) が導入され、同センターでの研究専用として利用されます。なお、お台場の同じ建物内には、産業技術総合研究所の他の4つの研究センターも入りますが、そのうち「生物情報解析研究センター (BIRC)」は、構造ゲノミクスや機能ゲノミクス等の研究プロジェクトを行うための組織であり、生命情報科学研究センターとも密接に関係しながら研究が進められる予定です。

本件問い合わせ先:
生命情報科学研究センター検討チーム
秋山・浅井(電子技術総合研究所)
E-mail: cb-adm@aist.go.jp

(写真) 現在、建築中のセンター



学会の現況

2001年2月16日現在、462名が会員となっていて、23名が申請中です。

賛助会員リスト

#会員番号 会社名

C0001 株式会社ユニバーサル・アカデミー・プレス
C0002 サン・マイクロシステムズ株式会社
C0003 日本SGI株式会社
C0004 CTCラボラトリーシステムズ株式会社
C0005 田辺製薬株式会社
C0006 グラクソ・スミスクライン株式会社
C0007 コンパックコンピュータ株式会社
C0008 山之内製薬株式会社
C0009 株式会社トニー精工
C0010 株式会社シーティーアイ
C0011 アプライドバイオシステムズジャパン株式会社
C0012 大日本製薬株式会社
C0013 ヒゲタ醤油株式会社
C0014 藤沢薬品工業株式会社

C0015 宝酒造株式会社
C0016 ドラゴンジェノミクス株式会社
C0017 明治製菓株式会社
C0018 第一製薬株式会社
C0019 塩野義製薬株式会社
C0020 株式会社富士通九州システムエンジニアリング
C0021 武田薬品工業株式会社
C0022 三井物産株式会社
C0023 三共株式会社
C0024 エーザイ株式会社
C0025 大鵬薬品工業株式会社
C0026 富士通株式会社
C0027 株式会社日立製作所
C0028 アマシャムファルマシアバイオテク株式会社(申請中)



JSBi News Letter



長らくお待たせいたしましたニュースレターの第2号をお届けします。この半年間だけを見ても、世間におけるバイオインフォマティクスへの認知度は格段に高まってきており、それに伴って学会の会員数も順調に増加していることは、まこと

に喜ばしいことです。新世紀に入って、会員の活躍の場はますます増えしていくことでしょう。この号で紹介した生命情報科学研究センターなどにもその先駆けとして、今後の発展を期待したいものです。(中井)

JAPANESE SOCIETY FOR BIOINFORMATICS